

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

06.01.2005

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 1 2 月 2 5 日
Date of Application:

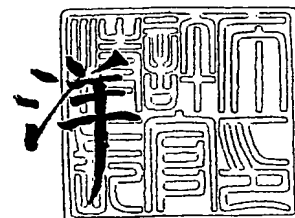
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 4 3 1 6 0 7
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 4 3 1 6 0 7]

出 願 人 ロ ー ム 株 式 会 社
Applicant(s):

2 0 0 5 年 2 月 1 8 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願
【整理番号】 03-00306
【提出日】 平成15年12月25日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 H04S 5/02
【発明者】
 【住所又は居所】 京都市右京区西院溝崎町 2 1 番地 ローム株式会社内
 【氏名】 大木 崇
【特許出願人】
 【識別番号】 000116024
 【氏名又は名称】 ローム株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100121337
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 藤河 恒生
 【電話番号】 077-547-3453
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 212120
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 0202210

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

レフトチャンネルオーディオ信号とライトチャンネルオーディオ信号とセンタチャンネルオーディオ信号とサラウンドレフトチャンネルオーディオ信号とサラウンドライトチャンネルオーディオ信号とサブウーハチャンネルオーディオ信号とを入力し、センタチャンネルオーディオ信号とサラウンドレフトチャンネルオーディオ信号とサブウーハチャンネルオーディオ信号とを所定の比率でレフトチャンネルオーディオ信号に、センタチャンネルオーディオ信号とサラウンドライトチャンネルオーディオ信号とサブウーハチャンネルオーディオ信号とを所定の比率でライトチャンネルオーディオ信号に、それぞれミキシングして出力し得るオーディオミキシング回路と、

オーディオミキシング回路の出力信号を入力し、その信号波形を調整するオーディオ信号調整回路と、

信号波形の調整が行われたオーディオ信号を増幅する複数のパワーアンプよりなるパワーアンプ部と、

増幅されたオーディオ信号により駆動される複数のスピーカよりなるスピーカ部と、を備えることを特徴とするオーディオ装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のオーディオ装置において、

前記オーディオミキシング回路は、ミキシングして出力する状態と、レフトチャンネルオーディオ信号とライトチャンネルオーディオ信号とセンタチャンネルオーディオ信号とサラウンドレフトチャンネルオーディオ信号とサラウンドライトチャンネルオーディオ信号とサブウーハチャンネルオーディオ信号とをミキシングすることなく出力する状態と、を選択可能としたことを特徴とするオーディオ装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】オーディオ装置

【技術分野】

【0001】

本発明は、多チャンネルのオーディオソースに対応するオーディオ装置に関する。

【背景技術】

【0002】

近年、ホームシアタなどに用いられる多チャンネル（例えばいわゆる5.1チャンネル）のオーディオソース（音源）に対応するオーディオ装置が商品化されている。このオーディオ装置は、視聴者の前方左右及び中央と、後方左右と、にスピーカを設置することにより、劇場やコンサートホールにいるような効果を得ようとするものである（例えば特許文献1）。5.1チャンネルのオーディオ装置は、従来のステレオオーディオ装置と同様に、ステレオオーディオ信号として、視聴者の前方左のスピーカ用のレフトチャンネル（L）オーディオ信号と、前方右のスピーカ用のライトチャンネル（R）オーディオ信号と、を処理する。更に、サラウンドオーディオ信号として、前方中央のスピーカ用のセンタチャンネル（C）オーディオ信号と、後方左のスピーカ用のサラウンドレフトチャンネル（SL）オーディオ信号と、後方右のスピーカ用のサラウンドライトチャンネル（SR）オーディオ信号と、重低音帯域（例えばベースギターや太鼓の音）を出力するスピーカ用のサブウーハチャンネル（SW）オーディオ信号と、を処理する。これらの各チャンネルには上演や演奏される内容に応じたオーディオソースが割り振られる。また、DVD系の光ディスクはこの多チャンネルのオーディオソースを記録しており、その再生はこの多チャンネルのオーディオ装置が行うのが一般的である。

【0003】

図4のブロック図は5.1チャンネルのオーディオソースに対応する従来のオーディオ装置の出力部分を示したものである。このオーディオ装置101は、オーディオ信号調整回路103と、パワーアンプ104L、104R、104C、104SL、104SR、104SWと、スピーカ105L、105R、105C、105SL、105SR、105SWと、から構成される。オーディオ信号調整回路103は、Lオーディオ信号、Rオーディオ信号、Cオーディオ信号、SLオーディオ信号、SRオーディオ信号、SWオーディオ信号の各信号を、それぞれ入力端子L、R、C、SL、SR、SWからオーディオ信号調整回路103のLinA端、RinA端、CinA端、SLinA端、SRinA端、SWinA端に入力する。そして、各オーディオ信号の波形の調整、すなわち音量、トレブル、バスなどの調整を行い、オーディオ信号調整回路103のLoutA端、RoutA端、CoutA端、SLoutA端、SRoutA端、SWoutA端からそれぞれ出力する。

【0004】

そして、パワーアンプ104L、104R、104C、104SL、104SR、104SWは、オーディオ信号調整回路103のLoutA端、RoutA端、CoutA端、SLoutA端、SRoutA端、SWoutA端からそれぞれオーディオ信号を入力してスピーカ105L、105R、105C、105SL、105SR、105SWを駆動する。

【0005】

【特許文献1】特開2002-345097号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

このように、視聴者は、多チャンネルのオーディオソースに対応するオーディオ装置を使用することにより、あたかも劇場やコンサートホールにいるような効果を楽しむことができる。しかし、このオーディオ装置を使用する環境（例えば部屋の大きさ）によっては、スピーカを多数設置せずに、従来のステレオオーディオ装置と同様に視聴者の前方左

右のみにスピーカを設置する場合（ステレオセットの場合）もある。この場合、図5に示すようにオーディオ信号調整回路103のLoutA端、RoutA端のみがパワーアンプ104L、104Rに接続され、スピーカ105L、105RからはLオーディオ信号とRオーディオ信号からなるステレオオーディオ信号が音声に変換されて出力される。

【0007】

従って、オーディオ信号調整回路103のCoutA端、SLoutA端、SRoutA端、SWoutA端のオーディオ信号はスピーカから出力されないの、Cオーディオ信号とSLオーディオ信号とSRオーディオ信号とSWオーディオ信号とに割り振られた音声は、いわゆる音抜けして視聴者に聞こえないことになる。

【0008】

本発明は、上記事由に鑑みてなしたもので、その目的とするところは、多チャンネルのオーディオソースに対し、各オーディオソース毎にスピーカを接続しても、各オーディオソースより少ない数のスピーカを接続しても、多チャンネルのオーディオソースの音抜けがなく再生できるオーディオ装置を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0009】

上記の課題を解決するために、請求項1に係るオーディオ装置は、レフトチャンネルオーディオ信号とライトチャンネルオーディオ信号とセンタチャンネルオーディオ信号とサラウンドレフトチャンネルオーディオ信号とサラウンドライトチャンネルオーディオ信号とサブウーハチャンネルオーディオ信号とを入力し、センタチャンネルオーディオ信号とサラウンドレフトチャンネルオーディオ信号とサブウーハチャンネルオーディオ信号とを所定の比率でレフトチャンネルオーディオ信号に、センタチャンネルオーディオ信号とサラウンドライトチャンネルオーディオ信号とサブウーハチャンネルオーディオ信号とを所定の比率でライトチャンネルオーディオ信号に、それぞれミキシングして出力し得るオーディオミキシング回路と、オーディオミキシング回路の出力信号を入力し、その信号波形を調整するオーディオ信号調整回路と、信号波形の調整が行われたオーディオ信号を増幅する複数のパワーアンプよりなるパワーアンプ部と、増幅されたオーディオ信号により駆動される複数のスピーカよりなるスピーカ部と、を備えることを特徴とする。

【0010】

請求項2に係るオーディオ装置は、請求項1に記載のオーディオ装置において、前記オーディオミキシング回路は、ミキシングして出力する状態と、レフトチャンネルオーディオ信号とライトチャンネルオーディオ信号とセンタチャンネルオーディオ信号とサラウンドレフトチャンネルオーディオ信号とサラウンドライトチャンネルオーディオ信号とサブウーハチャンネルオーディオ信号とをミキシングすることなく出力する状態と、を選択可能としたことを特徴とする。

【発明の効果】

【0011】

本発明のオーディオ装置は、オーディオミキシング回路を備えたので、各オーディオソース毎にスピーカを接続しても、各オーディオソースより少ない数の例えば2つのスピーカのみを接続しても、多チャンネルのオーディオソースが音抜けすることなく再生でき、あたかも劇場やコンサートホールにいるような効果を享受できるものとなる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下、本発明の最良の実施形態を図面を参照しながら説明する。図1及び図2は本発明の実施形態である多チャンネルのオーディオソースに対応するオーディオ装置1のブロック図である。このオーディオ装置1は、5.1チャンネルのオーディオ装置であって、従来のオーディオ装置101と異なるのは、オーディオミキシング回路2をオーディオ信号調整回路3の前段に設置している点である。オーディオ信号調整回路3はオーディオ信号調整回路103と実質的に同等な回路である。

【0013】

すなわち、このオーディオ装置 1 は、図 1 に示すフルセット（ホームシアタセット）の場合は、オーディオミキシング回路 2 と、オーディオ信号調整回路 3 と、パワーアンプ部 4、詳しくは、パワーアンプ 4 L、4 R、4 C、4 S L、4 S R、4 S W と、スピーカ部 5、詳しくは、スピーカ 5 L、5 R、5 C、5 S L、5 S R、5 S W と、を備える。一方、図 2 に示すステレオセットの場合は、オーディオミキシング回路 2 と、オーディオ信号調整回路 3 と、パワーアンプ 4 L、4 R よりなるパワーアンプ部 4 と、スピーカ 5 L、5 R よりなるスピーカ部 5 と、を備える。

【0014】

このオーディオミキシング回路 2 は、レフトチャンネル（L）オーディオ信号とライトチャンネル（R）オーディオ信号とから構成されるステレオオーディオ信号を、それぞれ入力端子 L、R から L i n M 端と R i n M 端とに入力し、センタチャンネル（C）オーディオ信号とサラウンドレフトチャンネル（S L）オーディオ信号とサラウンドライトチャンネル（S R）オーディオ信号とサブウーハチャンネル（S W）オーディオ信号とから構成されるサラウンドオーディオ信号を、それぞれ入力端子 C、S L、S R、S W から C i n M 端、S L i n M 端、S R i n M 端、S W i n M 端に入力する。そして、後に詳述するミキシング制御回路 20 により、ステレオオーディオ信号とサラウンドオーディオ信号の処理を制御する。このミキシング制御回路 20 は、S i n M 端を入力端とし、反転出力端と非反転出力端を有する。そして、外部の切り換えスイッチ（図示せず）により S i n M 端が接地される状態と電源 V c c に接続される状態が切り換えできる。

【0015】

まず、フルセットの場合、図 1 に示すように、オーディオミキシング回路 2 は、S i n M 端、すなわち、ミキシング制御回路 20 の入力端が接地されるようにする。これにより、L i n M 端、R i n M 端、C i n M 端、S L i n M 端、S R i n M 端、S W i n M 端に入力したオーディオ信号を、そのまま L o u t M 端、R o u t M 端、C o u t M 端、S L o u t M 端、S R o u t M 端、S W o u t M 端からそれぞれ出力する。

【0016】

オーディオ信号調整回路 3 は、オーディオミキシング回路 2 の L o u t M 端、R o u t M 端、C o u t M 端、S L o u t M 端、S R o u t M 端、S W o u t M 端からそれぞれ L i n A 端、R i n A 端、C i n A 端、S L i n A 端、S R i n A 端、S W i n A 端に入力したオーディオ信号の波形の調整、すなわち音量、トレブル、バスなどの調整を行い、波形調整を行ったオーディオ信号を L o u t A 端、R o u t A 端、C o u t A 端、S L o u t A 端、S R o u t A 端、S W o u t A 端からそれぞれ出力する。

【0017】

そして、パワーアンプ部 4 のパワーアンプ 4 L、4 R、4 C、4 S L、4 S R、4 S W は、オーディオ信号調整回路 3 の L o u t A 端、R o u t A 端、C o u t A 端、S L o u t A 端、S R o u t A 端、S W o u t A 端からそれぞれ波形調整を行ったオーディオ信号を入力して増幅し、増幅したオーディオ信号によりスピーカ部 5 のスピーカ 5 L、5 R、5 C、5 S L、5 S R、5 S W を駆動する。

【0018】

一方、ステレオセットの場合、図 2 に示すように、S i n M 端、すなわち、ミキシング制御回路 20 の入力端が電源 V c c に接続されるようにする。これにより、C i n M 端、S L i n M 端、S W i n M 端に入力したオーディオ信号を L i n M 端に入力したオーディオ信号にミキシングし、C i n M 端、S R i n M 端、S W i n M 端に入力したオーディオ信号を R i n M 端に入力したオーディオ信号にミキシングし、L o u t M 端と R o u t M 端とからステレオオーディオ信号として出力する。そして、C o u t M 端、S L o u t M 端、S R o u t M 端、S W o u t M 端からはオーディオ信号は出力されない（出力は無信号状態である）。

【0019】

オーディオ信号調整回路 3 は、オーディオミキシング回路 2 の L o u t M 端と R o u t M 端とからそれぞれ L i n A 端と R i n A 端とに入力したオーディオ信号の波形の調整を

行い、波形調整を行ったオーディオ信号をLoutA端とRoutA端とからそれぞれ出力する。また、ステレオセットの場合もフルセットの場合と同様に、オーディオ信号調整回路3のCinA端、SLinA端、SRinA端、SWinA端はオーディオミキシング回路2のCoutM端、SLoutM端、SRoutM端、SWoutM端にそれぞれ接続されている。

【0020】

そして、パワーアンプ部4のパワーアンプ4L、4Rは、オーディオ信号調整回路3のLoutA端とRoutA端からそれぞれ波形調整を行ったオーディオ信号を入力して増幅し、増幅したオーディオ信号によりスピーカ部5のスピーカ5Lと5Rとを駆動する。このオーディオ信号調整回路3は、そのCoutA端、SLoutA端、SRoutA端、SWoutA端には何も接続されない。

【0021】

次に、オーディオミキシング回路2の内部回路を図3に基づいて以下に説明する。

【0022】

LinM端には抵抗21の一端が接続され、SLinM端には抵抗23の一端が接続されると共にスイッチ47の一端に接続される。スイッチ47の制御端は、後述のスイッチ48乃至50のそれぞれの制御端と同様に、ミキシング制御回路20の反転出力端に接続される。スイッチ47の他端はSLoutM端が接続される。抵抗23の他端はスイッチ41の一端に接続される。スイッチ41の制御端は、後述のスイッチ42乃至46のそれぞれの制御端と同様に、ミキシング制御回路20の非反転出力端に接続される。スイッチ41の他端と抵抗21の他端は互いに接続されると共に抵抗22の一端とオペアンプ11の反転入力端子に接続される。オペアンプ11の非反転入力端子は、後述のオペアンプ12乃至14の非反転入力端子と同様に、基準電圧Vrefに接続される。オペアンプ11の出力端子と抵抗22の他端は互いに接続されると共に抵抗24の一端に接続される。また、CinM端には抵抗26の一端と抵抗33の一端が接続されると共にスイッチ49の一端に接続される。スイッチ49の他端はCoutM端が接続される。抵抗26の他端はスイッチ42の一端に接続され、抵抗33の他端はスイッチ45の一端に接続される。SWinM端には抵抗27の一端と抵抗34の一端が接続されると共にスイッチ50の一端に接続される。スイッチ50の他端はSWoutM端が接続される。抵抗27の他端はスイッチ43の一端に接続され、抵抗34の他端はスイッチ46の一端に接続される。そして、抵抗24の他端とスイッチ42及び43のそれぞれの他端とは互いに接続されると共に抵抗25の一端とオペアンプ12の反転入力端子に接続される。オペアンプ12の出力端子と抵抗25の他端は互いに接続されると共にLoutM端に接続される。上述の抵抗21及び22かつ抵抗24及び25はそれぞれ等しい抵抗値に設定してある。

【0023】

RinM端には抵抗28の一端が接続され、SRinM端には抵抗30の一端が接続されると共にスイッチ48の一端に接続される。スイッチ48の他端はSRoutM端が接続される。抵抗30の他端はスイッチ44の一端に接続される。スイッチ44の他端と抵抗28の他端は互いに接続されると共に抵抗29の一端とオペアンプ13の反転入力端子に接続される。オペアンプ13の出力端子と抵抗29の他端は互いに接続されると共に抵抗31の一端に接続される。そして、抵抗31の他端とスイッチ45及び46のそれぞれの他端とは互いに接続されると共に抵抗32の一端とオペアンプ14の反転入力端子に接続される。オペアンプ14の出力端子と抵抗32の他端は互いに接続されると共にRoutM端に接続される。

【0024】

次に、動作を説明する。まず、フルセットの場合、SinM端が接地されるので、ミキシング制御回路20の非反転出力端からはローレベルが、反転出力端からはハイレベルが出力される。よって、スイッチ41乃至46は導通せずスイッチ47乃至50は導通する。従って、LinM端に入力したオーディオ信号は、抵抗21及び22とオペアンプ11で構成される反転増幅器で反転され、抵抗24及び25とオペアンプ12で構成される反

転増幅器で更に反転される。抵抗 21 及び 22 かつ抵抗 24 及び 25 はそれぞれ等しい抵抗値であるので、L o u t M 端から出力されるオーディオ信号は L i n M 端に入力したオーディオ信号と実質的に同等なものとなる。同様に、R o u t M 端から出力されるオーディオ信号は R i n M 端に入力したオーディオ信号と実質的に同等なものとなる。また、C i n M 端と S L i n M 端と S R i n M 端と S W i n M 端とに入力したオーディオ信号はスイッチ 47 乃至 50 を通って C o u t M 端と S L o u t M 端と S R o u t M 端と S W o u t M 端とに出力される。

【0025】

一方、ステレオセットの場合、S i n M 端が電源 V c c に接続されるので、ミキシング制御回路 20 の非反転出力端からはハイレベルが、反転出力端からはローレベルが出力される。よって、スイッチ 41 乃至 46 は導通しスイッチ 47 乃至 50 は導通しない。従って、L i n M 端に入力したオーディオ信号は、抵抗 23 により決まる所定比率で S L i n M 端に入力したオーディオ信号とミキシングされて反転され、その反転信号は、抵抗 26 及び 27 により決まるそれぞれの所定比率で C i n M 端と S W i n M 端とに入力したオーディオ信号とミキシングされて更に反転されて L o u t M 端から出力される。同様に、R i n M 端に入力したオーディオ信号は S R i n M 端と C i n M 端と S W i n M 端とに入力したオーディオ信号と所定比率でミキシングされて R o u t M 端から出力される。また、スイッチ 47 乃至 50 は導通しないので、C o u t M 端と S L o u t M 端と S R o u t M 端と S W o u t M 端の出力は無信号状態となる。

【0026】

以上のように、図 1 に示すフルセットの場合は、各オーディオソース毎に、すなわち、前方左右及び中央と、後方左右と、にスピーカを設置することにより、視聴者は、多チャンネルのオーディオソース本来の効果の音を享受することができ、図 2 に示すステレオセットの場合は、各オーディオソースより少ない数、例えば、前方左右のみに 2 個のスピーカを設置することにより、視聴者は、多チャンネルのオーディオソースが消失していない音を享受することができる。

【0027】

なお、オーディオミキシング回路 2 は、実施形態のものに限られるものではなく、他の回路によっても実現は可能である。また、ミキシング制御回路 20 の S i n M 端を接地又は電源 V c c に接続に切り換える切り替えスイッチは、パワーアンプの数（すなわちスピーカの数）を検知して自動的に切り換えるようにしてもよい。また、ミキシング制御回路 20 は、S i n M 端の電圧でフルセットかステレオセットかを判別しているが、レジスタを有してそれに判別用データを書き込むようにしてもよい。

【0028】

また、オーディオミキシング回路 2 を D S P により代替させることも可能と考えられるが、D S P は高価であるのに対し、オーディオミキシング回路 2 は比較的簡単なアナログ回路で構成できるため安価にすることができる。更に、オーディオミキシング回路 2 とオーディオ信号調整回路 3 とを同一の半導体基板に形成して 1 チップ化することで、より安価にすることができ、オーディオ装置を小型化することもできる。

【0029】

また、以上の説明は 5. 1 チャンネルのオーディオ装置 1 について行ったが、オーディオソースが更に多い（例えば、サラウンドバック音を追加した）6. 1 チャンネルや 7. 1 チャンネルのオーディオ装置にも本発明が適用できるのは勿論である。

【図面の簡単な説明】

【0030】

【図 1】 本発明の実施形態に係るフルセットのオーディオ装置のブロック図。

【図 2】 同上のステレオセットのオーディオ装置のブロック図。

【図 3】 同上のオーディオミキシング回路の回路図。

【図 4】 背景技術のフルセットのオーディオ装置のブロック図。

【図 5】 同上のステレオセットのオーディオ装置のブロック図。

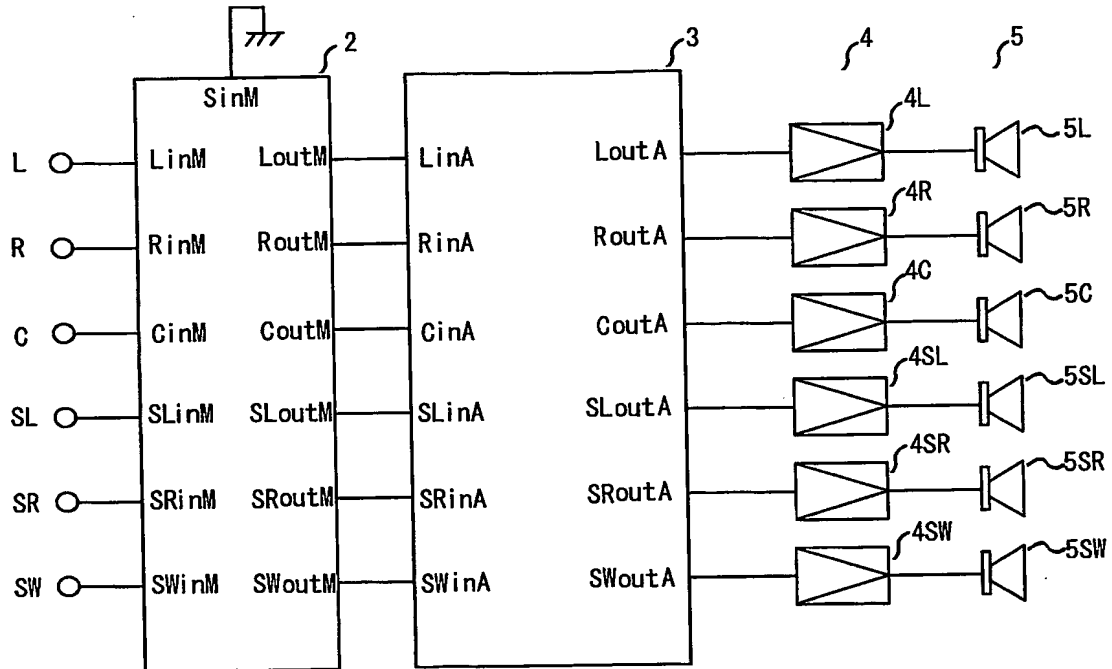
【符号の説明】

【0 0 3 1】

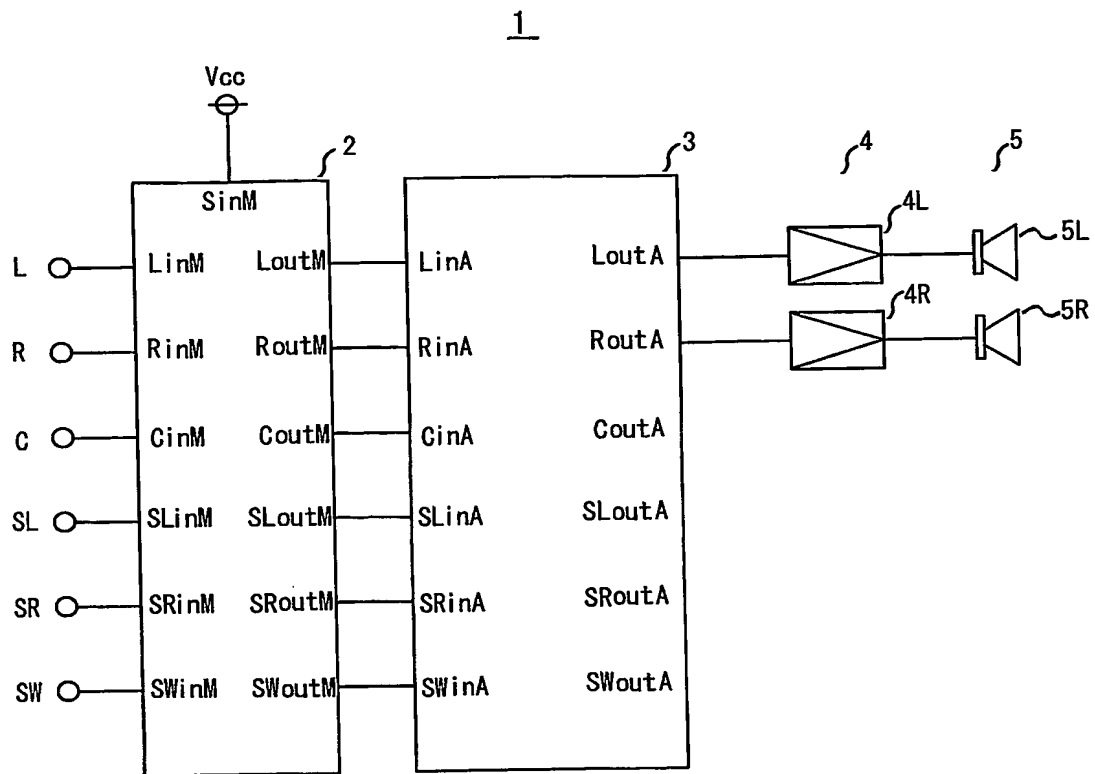
- 1 オーディオ装置
- 2 オーディオミキシング回路
- 2 0 オーディオミキシング回路のミキシング制御回路
- 3 オーディオ信号調整回路
- 4 パワーアンプ部
- 4 L、4 R、4 C、4 S L、4 S R、4 S W パワーアンプ部のパワーアンプ
- 5 スピーカ部
- 5 L、5 R、5 C、5 S L、5 S R、5 S W スピーカ部のスピーカ
- L レフトチャンネル (L) オーディオ信号入力端子
- R ライトチャンネル (R) オーディオ信号入力端子
- C センタチャンネル (C) オーディオ信号入力端子
- S L サラウンドレフトチャンネル (S L) オーディオ信号入力端子
- S R サラウンドライトチャンネル (S R) オーディオ信号入力端子
- S W サブウーハチャンネル (S W) オーディオ信号入力端子

【書類名】 図面
【図 1】

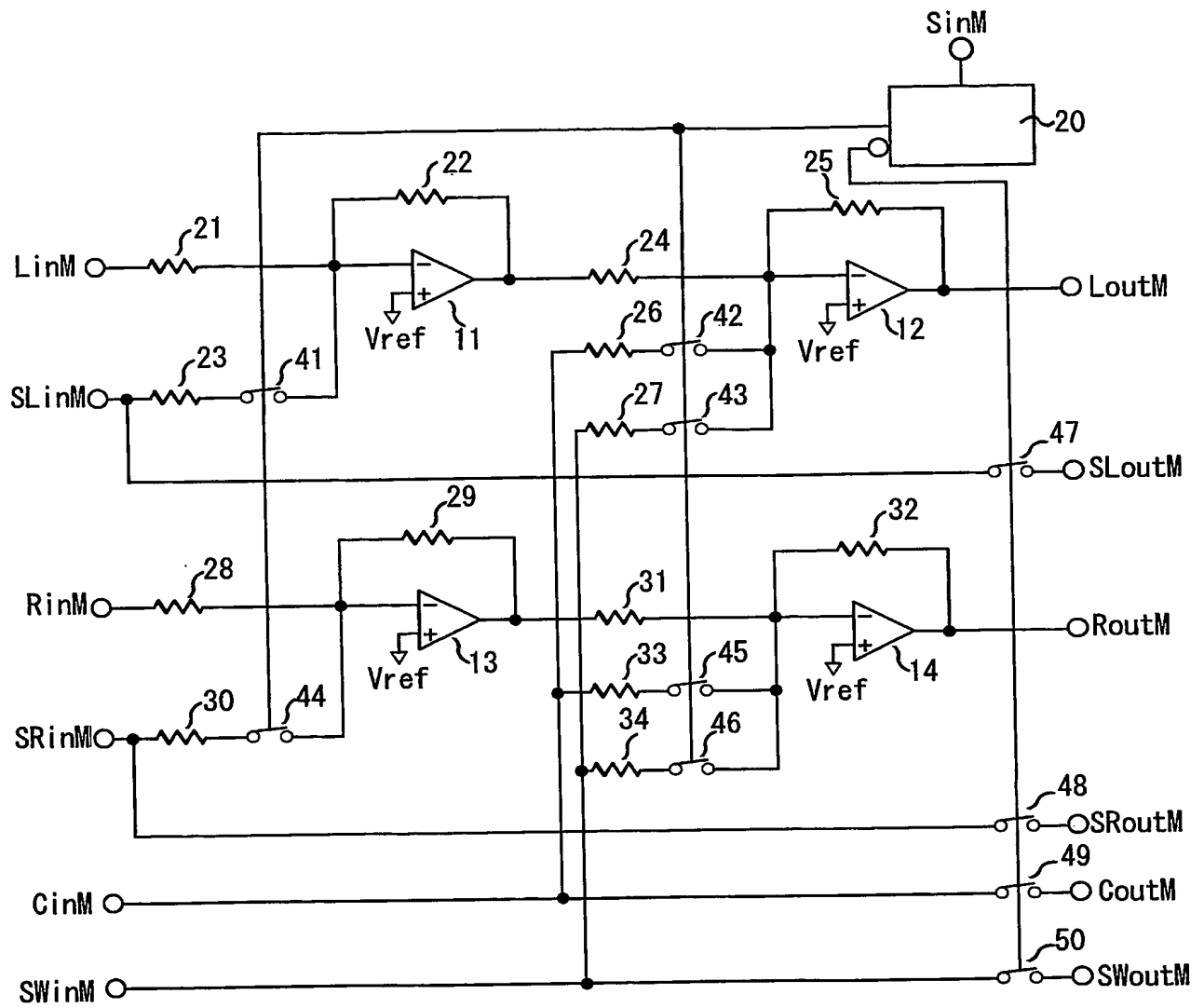
1



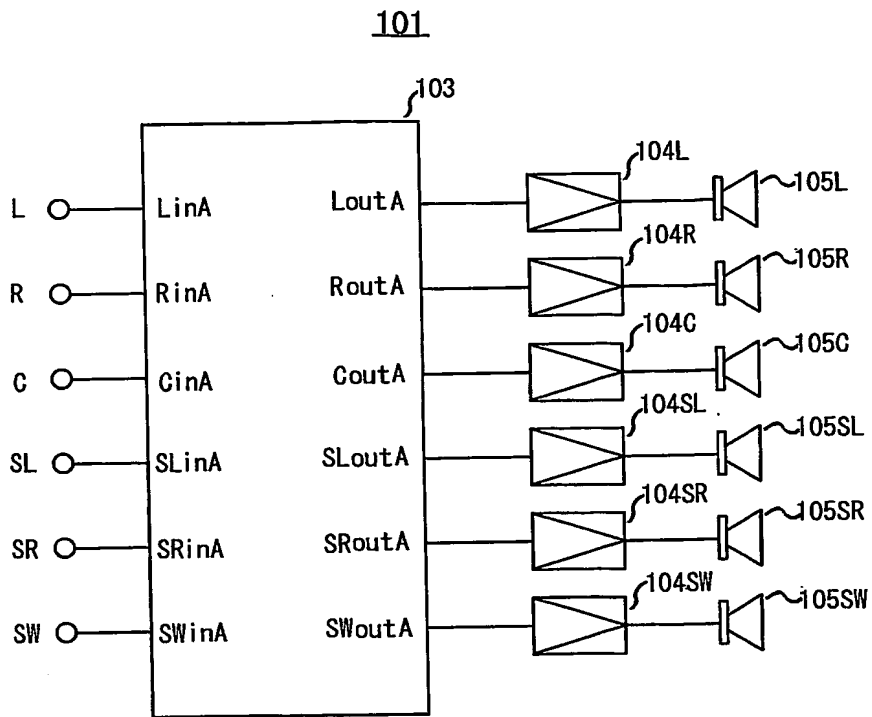
【図 2】



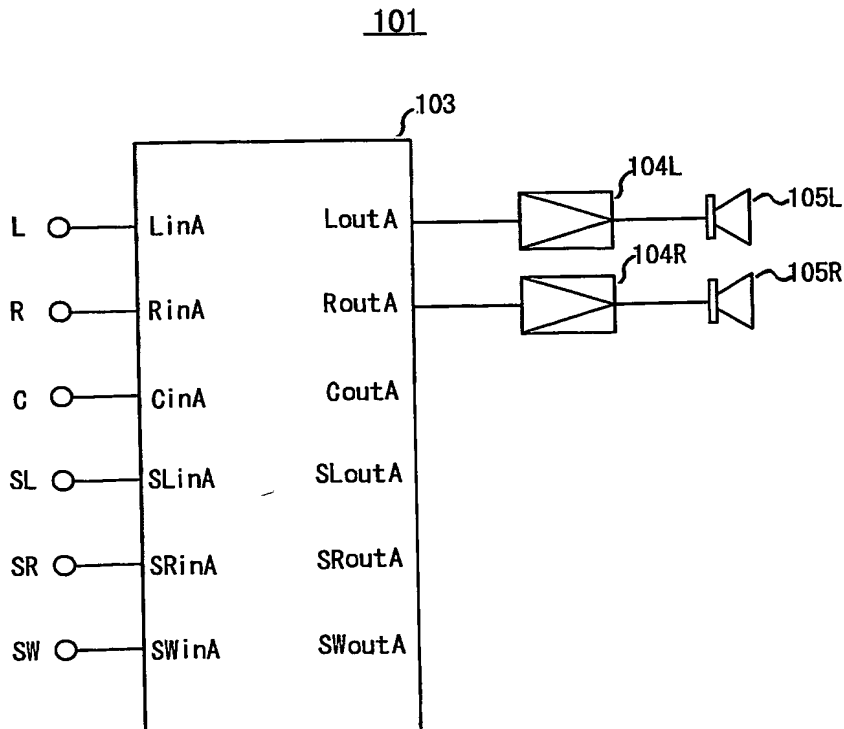
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【書類名】要約書**【要約】**

【課題】 多チャンネルのオーディオソースに対応するオーディオ装置を2つのスピーカのみを接続して使用しても音抜けすることなく再生できるオーディオ装置の提供。

【解決手段】 このオーディオ装置1は、Lオーディオ信号とRオーディオ信号とCオーディオ信号とSLオーディオ信号とSRオーディオ信号とSWオーディオ信号とを入力し、Cオーディオ信号とSLオーディオ信号とSWオーディオ信号とを所定の比率でLオーディオ信号に、Cオーディオ信号とSRオーディオ信号とSWオーディオ信号とを所定の比率でRオーディオ信号に、それぞれミキシングして出力するオーディオミキシング回路2と、オーディオミキシング回路2の出力信号を入力し、その信号波形を調整するオーディオ信号調整回路3と、を備える。

【選択図】 図2

特願 2 0 0 3 - 4 3 1 6 0 7

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 1 1 6 0 2 4]

1. 変更新月日

1 9 9 0 年 8 月 2 2 日

[変更理由]

新規登録

住 所

京都府京都市右京区西院溝崎町 2 1 番地

氏 名

ローム株式会社

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/019505

International filing date: 27 December 2004 (27.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2003-431607
Filing date: 25 December 2003 (25.12.2003)

Date of receipt at the International Bureau: 03 March 2005 (03.03.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse